自然保護委員会　日笠山連山ノジギク観察山行報告

開催日：11 月 30 日(日)

参加者：20 名

コース：山陽曽根駅～曽根天満宮～日笠山～北山～大北山～下山～赤山～六本松山～
　　一本松山～亀岩～雨乞いの道～大塩駅

雲一つなく穏やかに晴れた日差しの中、高砂市と姫路市の境に位置する日笠山連山を歩いてきました。生活音も聞こえるくらい町から近い里山ですが、よく整備され地元の人から愛されています。標高約 60～135 メートルの低山が連なり、低いながらも南は播磨灘、北は高御位山からかんざし岩へと続く山並みが一望できます。春には桜の名所としても知られる山ですが、この時期、登山道脇にひっそりと咲く自生のノジギクや手入れされた群生地のノジギクが心を癒してくれます。

菅原道真公ゆかりの曽根天満宮にお参りした後、古い町並みを抜け、民家脇の上り坂を息を切らして登っていくと急に展望が開け、斜面の桜越しに瀬戸内海や大塩の町並みが見えてきました。山と言うより丘と言うほうがぴったりの標高 61 メートル余りの日笠山ですが眺めは最高です。ここから小径に入り、竹林を開いた道をひと登りすると北山に到着です。夫婦岩という大きな岩が二つ鎮座していました。その先も気持ちの良い竹林が続き、やがて高砂市と大塩町を結ぶ馬坂峠に降りてきました。ここには大塩町ノジギク保存会によるノジギクの群生地があり、白や黄色の満開のノジギクが出迎えてくれました。ルーペで間近に観察し、周りの白いのが花弁、真ん中の黄色い部分が花だと植物に詳しいはりま支部のメンバーが教えてくれました。羽柴秀吉により落城したとされる大塩山城跡の石積みを過ぎ、いくつかの小ピークを越えて一本松山の展望所に到着。大塩町や北浜町の市街地、的形アルプスや播磨灘の眺めを楽しみながら昼休憩をとりました。藤崎先生からこの地域特有の岩質、竜山石を含む凝灰岩のお話を聞いた後、ご愛敬の子亀岩、大きな亀岩を経て、道沿いの横穴式石室からなる古墳を見学した後、雨乞いの道下山口に降りてきました。その後は、お寺や屋台蔵、道標が佇む古い町並みを歩き、大塩駅で解散となりました。８０歳代の大先輩方を筆頭にシニアの方が主なメンバー構成でしたが、皆さん健脚で、一緒に歩かせていただいたことに感謝いたしましてご報告とさせていただきます。

姫路岳友同人会　西本　陽子

ノジギク群生地での集合写真

見事な紅葉です